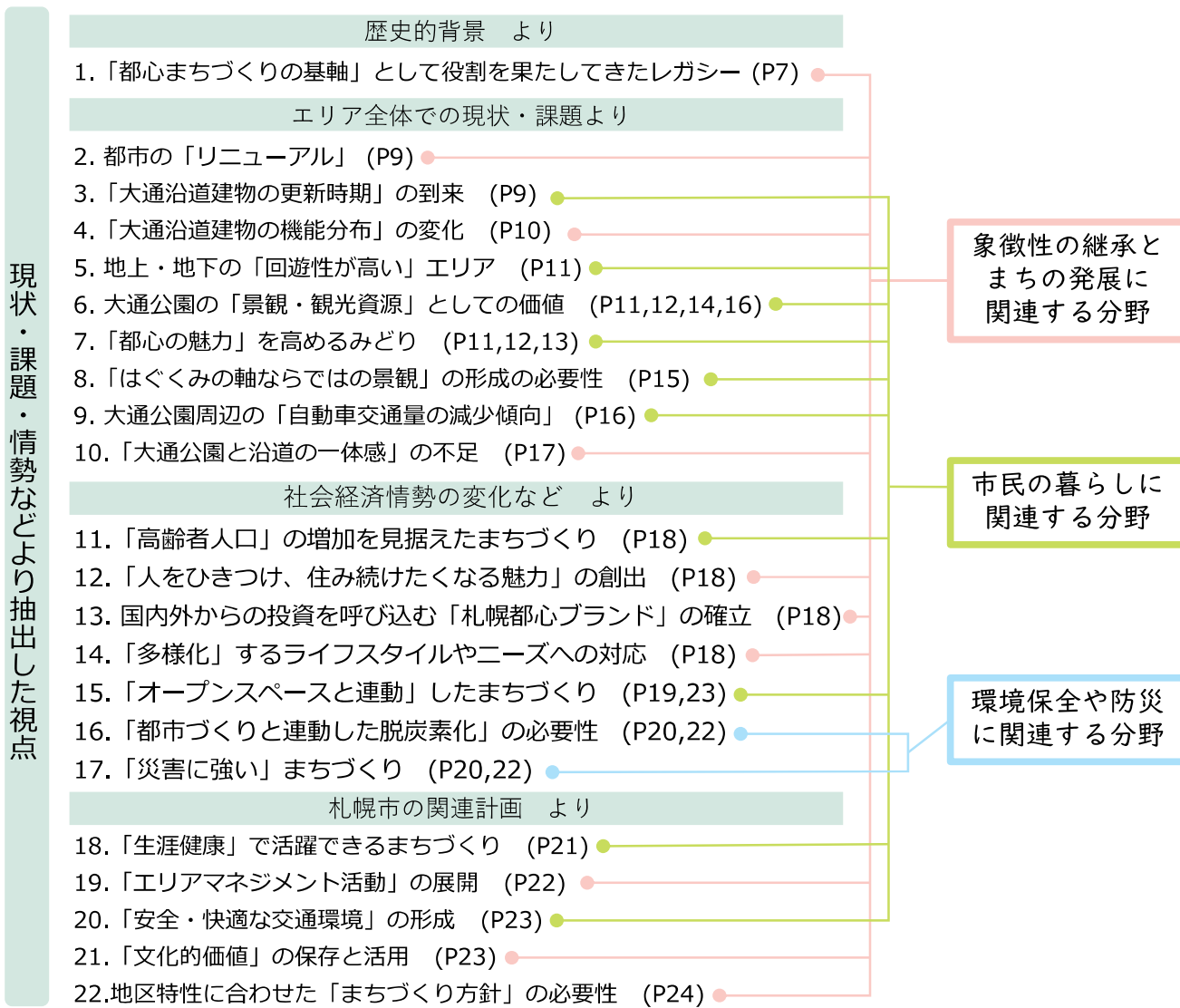


第3章 「はぐくみの軸」全体の強化方針

この章では、前章で、歴史的背景、エリア全体での現状・課題、社会経済情勢の変化など、札幌市の関連計画などから抽出した視点を、関連性があるもの同士で分類し、そこから、「はぐくみの軸」全体の将来像を設定するための【重視する視点】を設定します。

その上で、【現状・課題・情勢などより抽出した視点】、【重視する視点】及び【「はぐくみの軸」まちづくりの理念】を踏まえ、12個の【目指すべき将来像】を設定します。

3-1. 重視すべき視点と目指すべき将来像



現状・課題・情勢などより抽出した視点を上位のとおり3つの分野に分類し、内容を要約してまとめ、目指すべき将来像の柱となる【重視すべき視点】とします。

現状・課題・情勢などより抽出した視点の分析を踏まえた【重視すべき視点】の設定

象徴性の継承と まちの発展に関する分野	市民の暮らしに関連する分野	環境保全や防災に関連する分野
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後も「都心まちづくりの基軸」としての役割を担っていく ✓ 時代に合わせたまちづくりを進め、市民が「はぐくみの軸」を札幌ならではの貴重な財産として、より愛着を感じられるよう魅力を高めていくことが必要 ✓ 高めた魅力を国内外に発信し、活力投資を呼び込んでいくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 高齢者人口の増加や、地方移住への関心の高まり、働く環境への意識の変化がある ✓ みどりに囲まれ、誰にとっても安全・安心で居心地の良い「はぐくみの軸」ならではの都市空間を形成し、市民のより快適で豊かな暮らしを実現していくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地球温暖化とこれに伴う気候変動など地球環境問題は日々深刻化している ✓ 大地震や洪水といった自然災害への対応が求められていることから、「はぐくみの軸」の資源を活かした、環境にやさしく災害に強い、持続可能なまちづくりを進めていくことが必要



【現状・課題・情勢などより抽出した視点】、【重視する視点】及び【「はぐくみの軸」まちづくりの理念】を踏まえ、12個の【目指すべき将来像】とその将来像を端的に表すキーワードを設定します。

「はぐくみの軸」まちづくりの理念

象徴性の継承と新たな価値の創造

150年の歴史で育まれてきた価値を継承し、100年先の未来に向けて新たな魅力と活力を“はぐくむ”

踏まえる

重視すべき視点	目指すべき将来像	キーワード
Ⅰ 市民の愛着の醸成と魅力の発信	1 はぐくみの軸がもつ札幌都心の象徴性が継承されている	象徴性の継承
	2 はぐくみの軸ならではの文化・魅力・活力を創造することで世界から投資や人材などを呼び込む好循環が形成されている	創造と交流の好循環
	3 はぐくみの軸らしい魅力あるライフスタイルが国内外に認識されている	魅力あるライフスタイル
	4 時代の流れに柔軟に対応した市民・企業・行政などの協働によるまちづくりが進められている	協働によるまちづくり
Ⅱ より快適で豊かな暮らし	5 大通公園や大通沿道の公共的空間などが誰もが安心して利用できるユニバーサルな空間となっている	ユニバーサルなまち
	6 訪れる人の心身の健康を増進させる環境が整っている	心身の健康増進
	7 街区・道路・公園の一体感がある居心地がよく歩きたくなるまちが形成されている	居心地がよく歩きたくなるまち
	8 東西に長いはぐくみの軸を円滑に移動することができる	円滑な移動環境
	9 歴史的資源などを活かしたはぐくみの軸ならではの景観が形成されている	資源を活かした景観
	10 大通公園を中心に連続的にみどりの空間が形成されている	連続的につながるみどり
Ⅲ 持続可能なまちづくり	11 2050年のゼロカーボン都市の実現に向けた先進的な取組が進められている	都市の脱炭素化
	12 はぐくみの軸の防災機能が強化されている	防災機能の強化

次ページより、この12の『目指すべき将来像』とそれを端的に表すキーワードに紐づく、目指すべき将来像を実現させるための取組の方向を示します。

3-2. 将来像実現のための取組の方向

I. 市民の愛着の醸成と魅力の発信



将来像①【象徴性の継承】

はぐくみの軸がもつ札幌都心の象徴性が継承されている

大通は札幌のまちづくりを支える基軸としての役割を果たしてきました。「歴史的資源」「大通を介した東西・南北のまちのつながり」「大通公園・大通・沿道建物が一体となった空間」などを札幌都心の象徴性に関連する要素と捉え、以下の取組を通じて機能の向上などを図ることにより、都心全体のまちづくりを連結させる軸としての役割と札幌都心の象徴性をより高めることを目指します。

<取組の方向>

- a: はぐくみの軸周辺にある歴史的資源の価値を保存・活用する。
- b: 南北の回遊性向上や東西の軸性の強化を図る。
- c: 大通公園・大通・沿道建物を一体的な空間として捉えられるような機能配置や運用ルールなどの仕組みの整備を行う。



将来像②【創造と交流の好循環】

はぐくみの軸ならではの文化・魅力・活力を創造することで世界から投資や人材などを呼び込む好循環が形成されている

対象エリアは東西約2.5kmにわたっており、場所ごとに異なる地域特性を有していることから、様々な活動を受け入れる多様な空間の形成や都市機能の導入を図ることができる可能性を持っています。以下の取組により、様々な空間や機能が連続していくことで、はぐくみの軸ならではの”都市のブランド”が育ち、投資や人材などを呼び込んでいくことを目指します。

<取組の方向>

- a: 公有地や低・未利用地の活用、既存の都市基盤施設・公開空地の利活用を図る。
- b: 地域の特性を活かして、まちの魅力を高める活動の促進や、建物の用途・機能の誘導を図る。
- c: 大通公園の魅力さをさらに高める。



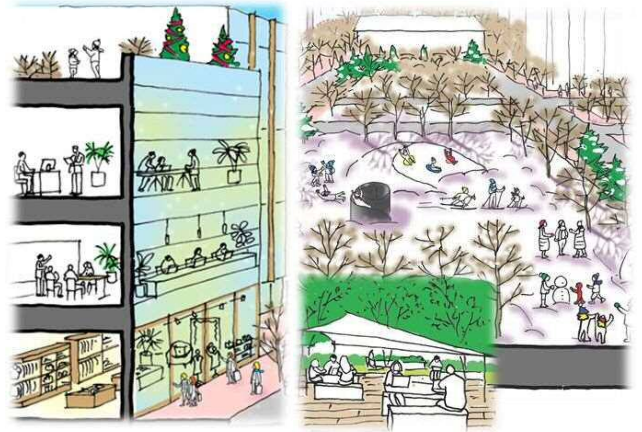


将来像③ 【魅力あるライフスタイル】 はぐくみの軸らしい魅力あるライフスタイルが 国内外に認識されている

近年、生活環境に求められるニーズや個人のライフスタイルの在り方は多様化しています。日常的に訪れ利用する空間や大通公園に関する以下の取組が実現する事により、“はぐくみの軸らしい魅力的なライフスタイル”が定着し、そのイメージが広く醸成されて行くことを目指します。

<取組の方向>

- a: 四季を通じてだれもが利用でき大通公園との一体的な利用を意識したパブリックスペースを屋内外で創出し、日常利用の促進を図る。
- b: 建物用途や設えの工夫により、大通公園やまちに開かれた空間を創出する。
- c: 大通公園がもたらす日常の憩いとイベント開催などによるにぎわいの両立を図る。

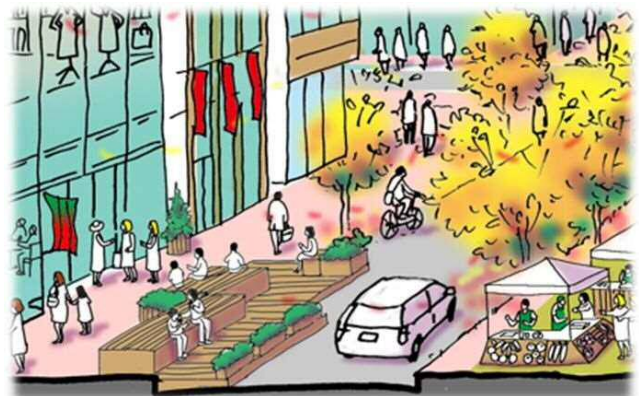


将来像④ 【協働によるまちづくり】 時代の流れに柔軟に対応した市民・企業・行政などの 協働によるまちづくりが進められている

まちの魅力を高めていくためには、既存の公共空間の柔軟な利活用を図るほか、施設整備などを検討する際には同時にその活用の在り方を探っていくことが必要です。以下の取組により、その場所をよく知った住民などの関係者と企業や行政などが協働して実験などを重ねることで、地域特性に馴染み、時代の流れに適応したまちづくりが進められることを目指します。

<取組の方向>

- a: 市民・企業・行政などの協働による実証実験を展開しながら、施策の検討を進める。
- b: 市民・企業・行政などの協働による活発なまちづくり活動を促進する。



Ⅱ. より快適で豊かな暮らし



将来像⑤ 【ユニバーサルなまち】

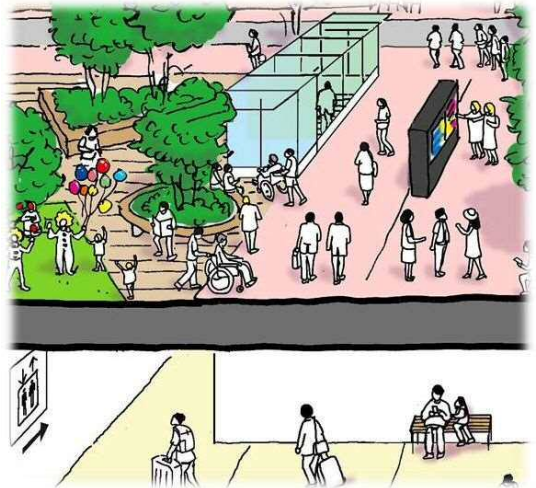
大通公園や大通沿道の公共的空間などが

誰もが安心して利用できるユニバーサルな空間となっている

札幌都心では地下歩行空間や地下街が発展しており、「はぐくみの軸」上も地上と地下の回遊性が高いエリアです。しかし、今後の高齢者人口の増加や生活スタイルの多様化などを見据えると、全ての人にとって快適な環境を整えていく必要があります。以下の取組により、誰もが安心して利用できる環境の整備を目指します。

<取組の方向>

- a: 都市基盤施設を含むパブリックスペースや建物などのバリアフリー化、利便性・快適性の向上を進める。



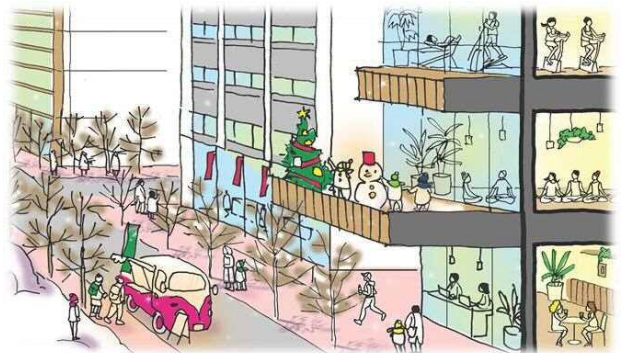
将来像⑥ 【心身の健康増進】

訪れる人の心身の健康を増進させる環境が整っている

生涯健康で活躍するためには、日頃からの心身の健康増進が重要です。以下の取組により、訪れる人が季節を問わず身体を動かすことができ、都心にいながら札幌の自然を享受できる環境を実現していくことを目指します。

<取組の方向>

- a: どの季節にも歩きやすい環境を創出し、心身の健康増進のため活用する。
- b: 開発や建替に合わせて、大通公園の環境を建物内部に引き込む設えや、心身の健康増進に資する機能を導入する。





将来像⑦【居心地がよく歩きたくなるまち】

街区・道路・公園の一体感がある

居心地がよく歩きたくなるまちが形成されている

大通沿道の建物は更新時期が近付いているものが多く、今後、建替が進んで行く可能性があります。その際にはオープンスペースや道路空間の在り方なども考慮した、歩行者の為の空間づくりが必要になります。以下の取組により、街区・道路・公園の一体感がある、居心地がよく歩きたくなるまちの実現を目指します。

<取組の方向>

- a:安全・快適な歩行者動線を確保する。
- b:憩いやにぎわいの場としての道路空間の柔軟な利活用を検討する。
- c:居心地が良く、歩いていて楽しいと感じる空間形成を図る。



将来像⑧【円滑な移動環境】

東西に長いはぐくみの軸を

円滑に移動することができる

「はぐくみの軸」は東西に長く、徒歩のほか、自転車、自動車、地下鉄、バスなど、多様な移動手段を選択できる場所です。周辺の自動車交通量など以前と比較して交通環境が変化していることなどを踏まえ、以下の取組により、はぐくみの軸における円滑に移動できる環境の実現を目指します。

<取組の方向>

- a:エリア内を円滑に移動できる環境を整備する。





将来像⑨【資源を活かした景観】 歴史的資源などを活かした はぐくみの軸ならではの景観が形成されている

大通公園や周辺の歴史的資源は、景観・観光資源としても高い価値があります。今後新たな建物などによる景観の更新が図られる際は、以下の取組を通じて、周辺との調和を考慮しながら、「はぐくみの軸」ならではの景観形成を目指します。

<取組の方向>

- a: 大通公園や周辺の歴史的資源、大通沿道の街並みとの調和を考慮した、一体感のある景観形成を図る。
- b: 屋外広告物の掲出にあたっては大通沿道の景観に配慮する。



将来像⑩【連続的につながるみどり】 大通公園を中心に 連続的にみどりの空間が形成されている

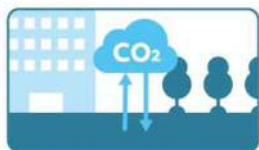
「はぐくみの軸」では、大通公園などの札幌都心の豊かなみどりを活かした都市のブランド力向上を図ることが可能です。以下の取組により、都心の魅力を高めるみどりが連続していくまちを目指します。

<取組の方向>

- a: 周辺のまとまったみどりや大通公園とのネットワーク強化を図り、みどりの質と量を向上させる。
- b: 大通公園と沿道のみどりとの一体的な繋がりを創出する。



Ⅲ. 持続可能なまちづくり

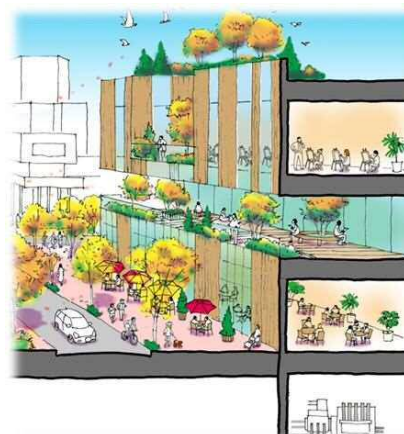


将来像①【都市の脱炭素化】 2050年のゼロカーボン都市の実現に向けた 先進的な取組が進められている

地球全体の課題である脱炭素化に向け、札幌市では令和2年（2020年）にゼロカーボンシティ宣言をしています。大通沿道で進む建物の更新の動きと連動して、以下の取組により脱炭素化を進め、持続可能な発展を目指します。

<取組の方向>

a: 建物の環境性能向上を図る。



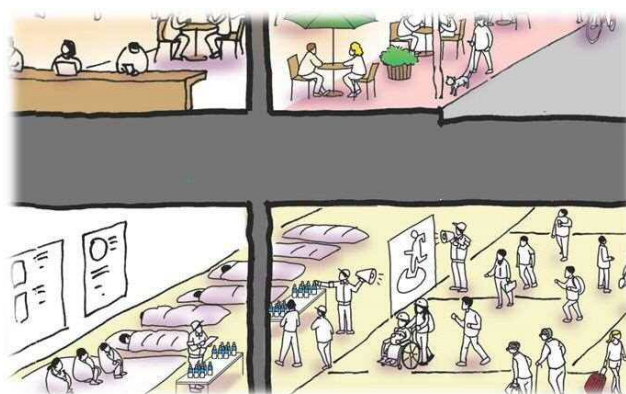
将来像②【防災機能の強化】 はぐくみの軸の防災機能が強化されている

札幌市では、平成30年（2018年）に発生した北海道胆振東部地震において大規模停電によるブラックアウトを経験し、災害に強いまちづくりの重要性を再認識しました。以下の取組により、「はぐくみの軸」の防災機能を強化していきます。

<取組の方向>

a: 施設の防災性能向上を図る。

b: 地域主体の防災の取組を進める。



第4章 ゾーン別の強化方針

4-1. ゾーン区分の設定

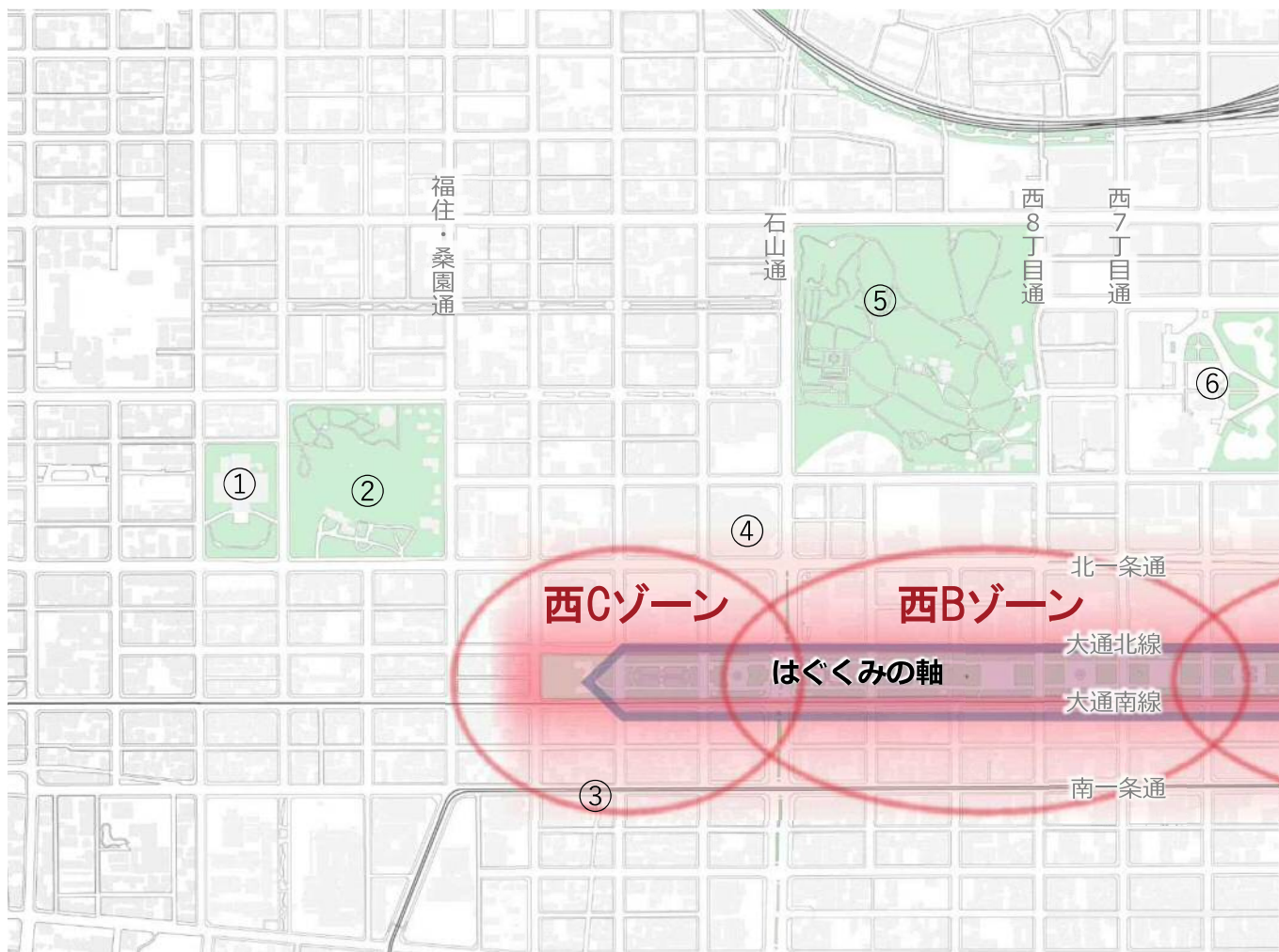
「はぐくみの軸」は東西に約2.5kmの長さがあるため、場所ごとにまちの特色に違いがあります。その特色を踏まえながら、それぞれの魅力を高めていくことで相乗効果を生み出し、「はぐくみの軸」全体の価値を向上させていくため、現状の沿道施設の立地状況や第2次都心まちづくり計画の考え方などから、「はぐくみの軸」上を4つのゾーンに区分けしました。

西Cゾーン (概ねの位置:「はぐくみの軸」西端～石山通)

- 周辺を含めて文化芸術施設・歴史的資源や集客交流施設が立地しているとともに、地下鉄駅・路面電車・バスの停留所が近接しており、交通利便性が高いゾーン

西Bゾーン (概ねの位置:石山通～西6丁目)

- 多くの子どもが利用する大通公園の「遊び・イベントゾーン」を含み、沿道にはオフィス・集合住宅・ホテル・教育施設などが立地し、多様な土地利用となっているゾーン



■ ゾーン範囲周辺の施設



①北海道立近代美術館



②北海道知事公館



③札幌市電



④ロイトン札幌



⑤北海道大学植物園

西Aゾーン

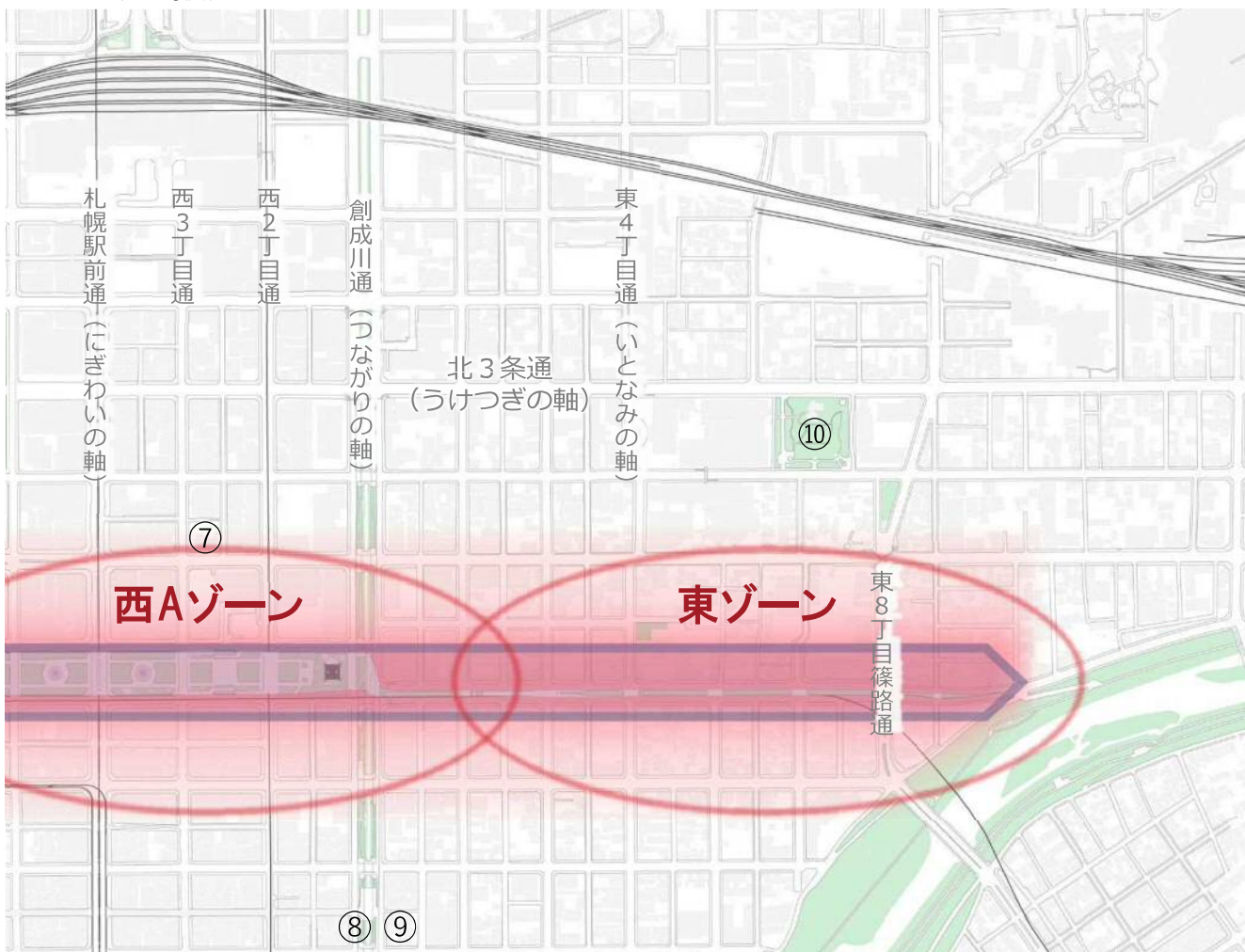
(概ねの位置:にぎわいの軸・つながりの軸と
大通・創世交流拠点を含むエリア)

- 第2次都心まちづくり計画で「大通・創世交流拠点」として位置付けているほか、「都心強化先導エリア」「都心商業エリア」の一部を含んでおり、都心の中でもビジネス・行政・商業といった都市機能の中心的役割を担っているゾーン

東ゾーン

(概ねの位置:大通・創世交流拠点より東側)

- 共同住宅の建設が進んでいる一方で、公園や公共的空間が不足しており、また、青空駐車場といった低未利用地が多いゾーン



⑥北海道庁旧本庁舎



⑦札幌市時計台



⑧創成川公園



⑨二条市場



⑩旧永山武四郎邸

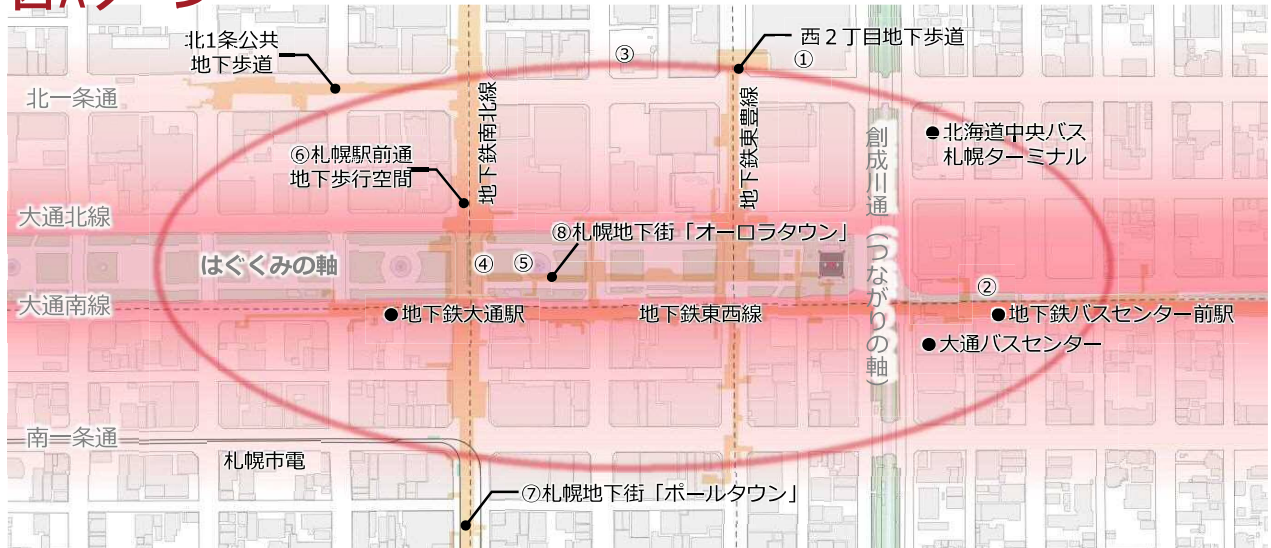
上記画像全て <資料> 札幌市

4-2. ゾーン別の現状と課題、強化の考え方

ここでは4つに分けたゾーン毎にまちの特性や主な課題を分析し、「強化の考え方」を設定します。

■ ゾーン周辺図

西Aゾーン



①札幌市民交流プラザ



②札幌大通地下ギャラリー500m美術館



③札幌時計台



④大通公園西3丁目・さっぽろテレビ塔



二条市場



⑤大通公園西3丁目・噴水



⑥札幌駅前通地下歩行空間



さっぽろ地下街（左：⑦ポールタウン、右：⑧オーロラタウン）

上記画像全て <資料>札幌市

■ ゾーン特性 ●●●：関連する将来像のキーワード

- 札幌市民交流プラザや札幌大通地下ギャラリー500m美術館など文化芸術施設が立地している。●創造と交流の好循環
- 札幌市時計台、さっぽろテレビ塔など札幌を象徴する歴史的資源、景観資源が立地している。
 - 象徴性の継承 ●資源を活かした景観
- 二条市場などの地域資源がある。●象徴性の継承
- 噴水などの水景施設が大通公園の各街区を特徴づけている。●象徴性の継承
- 創成川通アンダーパス連続化事業に伴い創成川公園や創成川の東西市街地を繋ぐ道路が整備され、創成川以西から以東への人の流れを創出する基盤が形成されている。●象徴性の継承
- 地区計画や地域が主体となって策定したまちづくりガイドラインにより土地利用などの方針が示され、今後の機能更新が期待される街区がある。●創造と交流の好循環
- 地下歩行空間、地下街などが展開し、地下の回遊性を有する空間となっている。●ユニバーサルなまち
- 北海道内各所と繋がるバスターミナル機能や市内各地への交通アクセスが充実している。●円滑な移動環境
- 新函館北斗から新幹線のルートが延伸され、札幌駅が開業する予定である。●円滑な移動環境
- 地下鉄駅や路面電車・バスの停留場が近接しており、交通結節点になっている。●円滑な移動環境
- 面的なエネルギーネットワークの整備が進められている。●都市の脱炭素化
- 一時避難場所としての大通公園や一時滞在施設としての地下歩行空間などがある。●防災機能の強化

■ 第2次都心まちづくり計画上の位置づけ

- 「大通・創世交流拠点」に位置づけられ、札幌の都市文化を発信・体感する拠点機能の展開などを目指している。

■ 主な課題 ●●●：関連する将来像のキーワード

- 札幌駅前通と大通の交点であり、象徴的空間として強化していく必要がある。●象徴性の継承 ●創造と交流の好循環
- 札幌を象徴する歴史的資源としての札幌市時計台が立地しているが、大通公園とのつながりが弱い。●象徴性の継承
- 沿道から南北へ展開する回遊性が不足している。●象徴性の継承
- 西側から繋がっている公園は創成川までで途切れており、創成川以東への連続性が途切れている。
 - 創造と交流の好循環
- 沿道と公園の一体感に欠け、低層部での沿道と公園のにぎわいの連続が不足している。●魅力あるライフスタイル
- 大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区域、風致地区及び都市公園区域として、沿道建物の位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに敷地内の緑化などの基準があるが、より良好な景観形成に向けた検討の余地がある。
 - 資源を活かした景観
- 屋外広告物の掲出にあたっては、大通地区の特性を踏まえ、先行整備地区（札幌駅周辺地区など）との比較において、より抑制的な掲出とすることが望ましい。●資源を活かした景観
- 路上駐車が長く、自転車通行空間をふさぐなどの支障が生じている。●円滑な移動環境
- エネルギーネットワークを、沿道建物へさらに拡充していく必要がある。●都市の脱炭素化

強化の考え方

育んできた価値と新しい価値が融合した
世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ

■強化の考え方

育んできた価値と新しい価値が融合した
世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ

■想定される主な取組例

※ゾーン毎に想定される主な取組の一覧は55ページ以降を参照

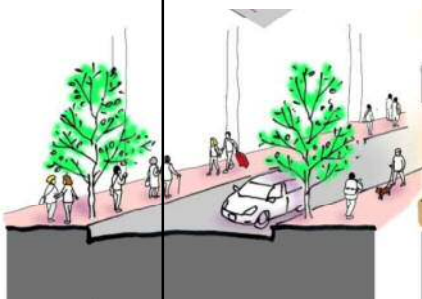


【象徴性の継承】

- 歴史的資源[※]の保存と活用



※札幌市時計台



【居心地がよく歩きたくなるまち】

- 歩行者動線と錯綜しない、集約的荷さばきのためのスペースや動線の確保



【防災機能の強化】

- 災害時に活用できるパブリックスペースの創出
- エリアマネジメント団体による防災訓練の実施



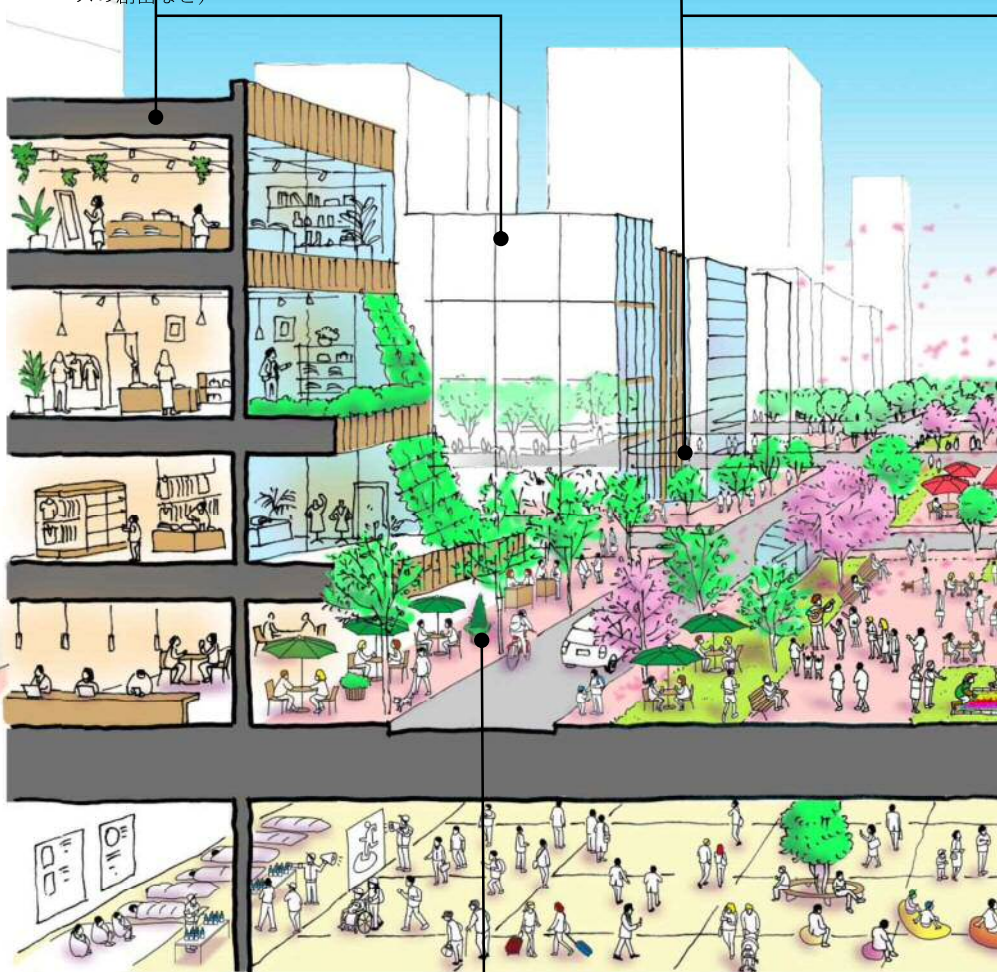
【資源を活かした景観】

- 新築建物における大通公園や大通沿道の環境、そこでの活動に配慮した配棟の計画
(壁面セットバックを用いた大通公園や歴史的資源への配慮など)
- 新築建物における街並みと調和した建物の表情線の創出
(隣接建物と調和した低層部の軒高やオープンスペースの創出など)



【創造と交流の好循環】

- 周辺街区も含めた機能を高める市有地の利活用の検討
(大通西1丁目、大通西2丁目街区など)
- 既存の資源を活かした市民の憩いや賑わいの創出に資する空間の形成
(札幌市時計台、さっぽろテレビ塔、大通公園、創成川公園など)



【連続的につながるみどり】

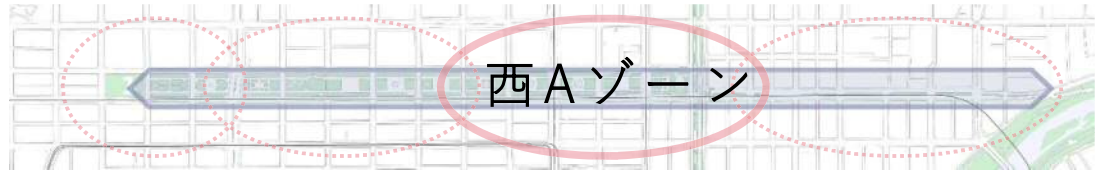
- みどりととの繋がりを創出するための中低層部の設えの工夫



【象徴性の継承】

- 沿道建物低層部を活用した賑わい創出
(オープンカフェや屋外テラスの配置など)
- 沿道建物から大通/大通公園までの空間を繋ぐパブリックスペースの創出や利活用
(民間開発の創意工夫による機能配置、民間開発等との連携によるみどりの創出など)

街区・道路・公園の一体感を



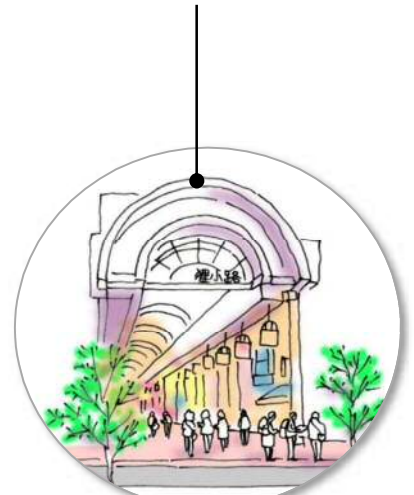
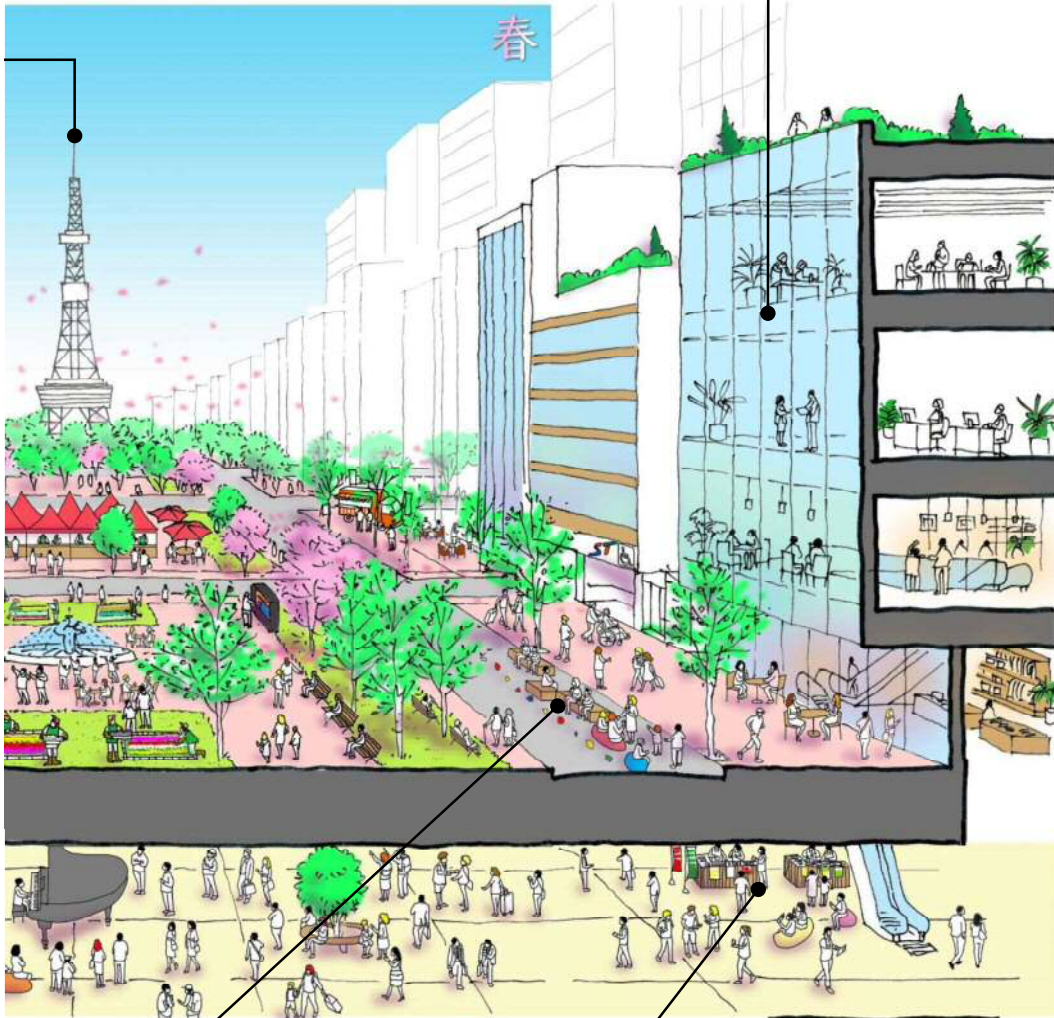
【創造と交流の好循環】

- 建物の更新に合わせた用途の複合化やまちの魅力を高める機能の集積
- 大通公園に面した街区らしい働き方ができ、多様な人材を引き寄せる創造的なオフィス環境の整備

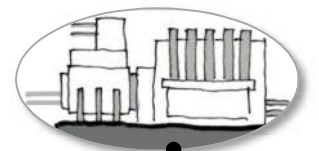
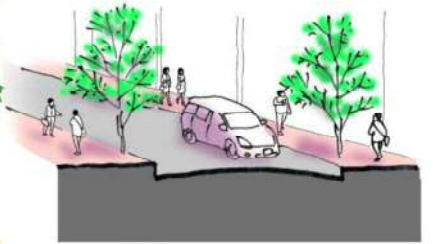


【象徴性の継承】

- 狸小路を活かした南北の回遊性の創出



※狸小路商店街



※エネルギーセンター



【協働によるまちづくり】

- 実現させたい施策を想定した、多様な関係者が参加した実証実験の実施



【ユニバーサルなまち】

- 建替等に合わせた地上と地下の往来時の利便性の向上
(地下の歩行者空間への接続箇所の新設、地上・地下出入り口の建物への取込みなど)



【居心地がよくなるまち】

- 道路空間の柔軟な利活用を想定した実証実験の実施



【都市の脱炭素化】

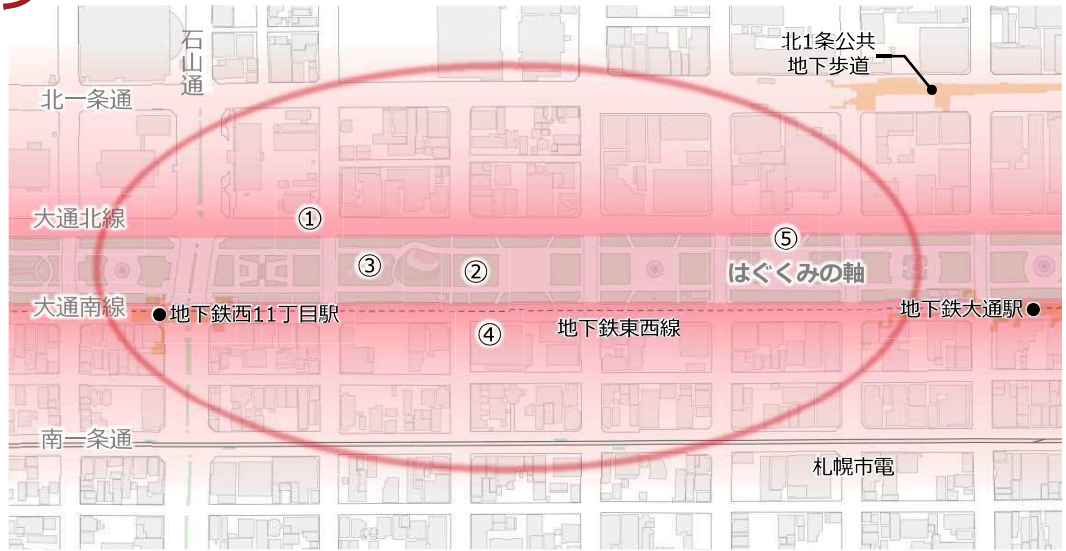
- 大規模開発の機会を捉えた面的エネルギーネットワークの構築、拡充 (低炭素な熱利用の促進など)
- 各建物へのBEMS、エネルギーセンターを核としたAEMSの導入の促進 (ICTを活用した効率的な電力利用の促進など)

※熱供給パイプライン

感じられる空間の形成

■ ゾーン周辺図

西Bゾーン



道庁赤レンガ庁舎



北大植物園



①沿道に並ぶ集合住宅・専門学校



②ブラックスライドマントラ



③遊水路



④札幌ビューホテル大通公園



⑤大通公園6丁目・野外ステージ

上記画像全て <資料> 札幌市

■ ゾーン特性 ●●●：関連する将来像のキーワード

- 北側には道庁赤レンガ庁舎、北大植物園といった象徴的な都市機能が位置している。●**象徴性の継承**
- 共同住宅の建設や保育施設の整備が進み、教育施設も立地しており、都心居住の受け皿となっている。●**魅力あるライフスタイル**
- 「遊び・イベントゾーン」では、子供連れや学生といった若い世代が集まり交流するスペースが生まれている。●**魅力あるライフスタイル**
- 大通公園西8丁目は、さっぽろ雪まつりやYOSAKOIソーラン祭りなどの大規模イベント時のメイン会場として活用され、イベントスペースとして機能しており、ホテルも立地している。●**魅力あるライフスタイル**
- 野外ステージは音楽イベントなどで活用され、文化芸術機能を発揮している。●**創造と交流の好循環**
- 市電の電停が複数面しており、大通から南側のエリアとの接続の起点となっている。●**円滑な移動環境**
- 大通公園が一時避難場所として指定されている。●**防災機能の強化**
- 沿道ビルは築年数の経過などを踏まえると、今後も個別の建替・利用継続が見込まれる。●**防災機能の強化**



■ 主な課題 ●●●：関連する将来像のキーワード

- 沿道低層部の機能が、公園内の機能と連携しておらず、公園とまちの一体感が感じられない。●**象徴性の継承**
- 周辺の世帯数増加に伴い子供の人口も増加傾向にあるが、大通公園が、憩いと遊びの場として活用できる期間が十分ではない。●**魅力あるライフスタイル**
- イベント時には、イベントの非利用者に対する動線の対応が課題となっている。●**魅力あるライフスタイル**
- イベント時には、イベント建屋背面により、大通公園と沿道のつながりが薄れる。●**魅力あるライフスタイル**
- 大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区域、風致地区及び都市公園区域として、沿道建物の位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに敷地内の緑化などの基準があるが、より良好な景観形成に向けた検討の余地がある。●**資源を活かした景観**
- 屋外広告物の掲出にあたっては、大通地区の特性を踏まえ、先行整備地区（札幌駅周辺地区など）との比較において、より抑制的な掲出とすることが望ましい。●**資源を活かした景観**
- 路上駐車が多く、自転車通行空間をふさぐなどの支障が生じている。●**円滑な移動環境**



強化の考え方

居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う
都市の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ

■強化の考え方

居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う
都市の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ

■想定される主な取組例 ※ゾーン毎に想定される主な取組の一覧は55ページ以降を参照



【創造と交流の好循環】

- 多様な人材の集積・交流を促すための、多様な滞在環境の整備
- 大通公園に面した街区らしい働き方ができ、多様な人材を引き寄せる創造的なオフィス環境の整備

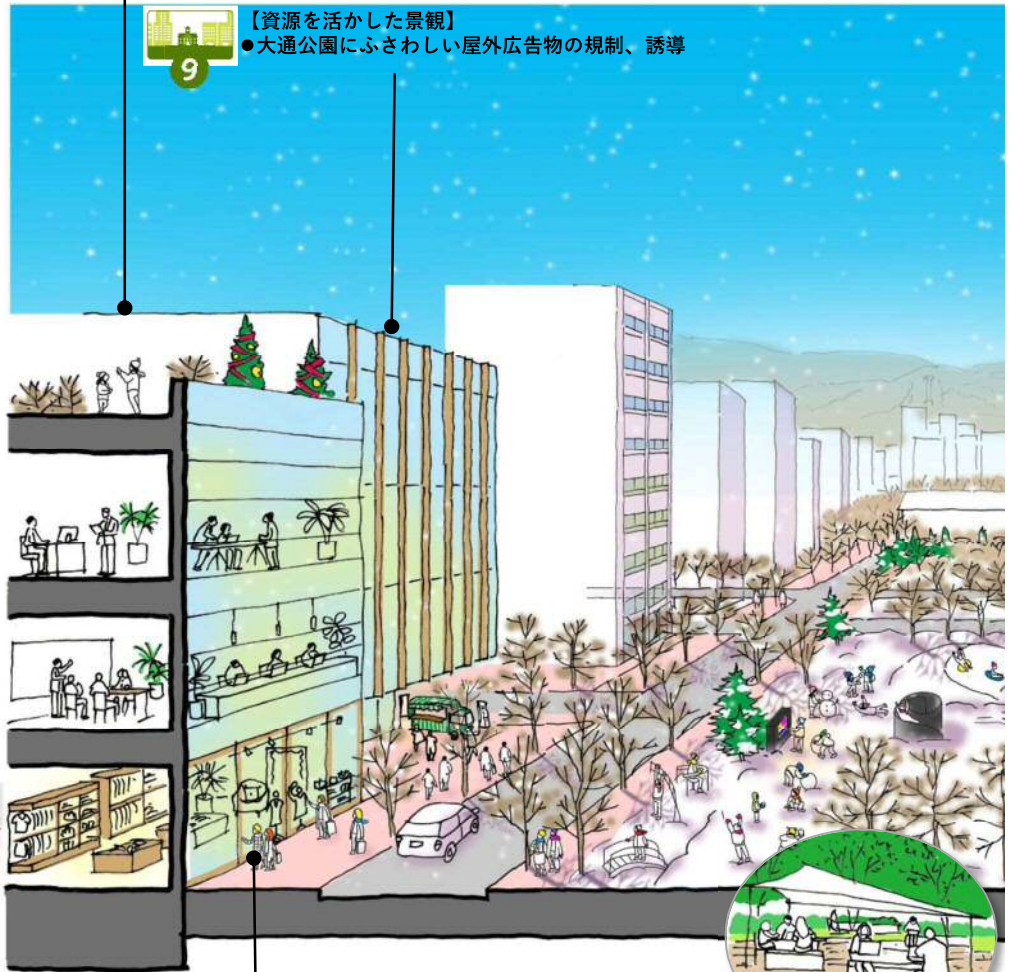


※狸小路商店街



【資源を活かした景観】

- 大通公園にふさわしい屋外広告物の規制、誘導



【居心地がよく歩きたくなるまち】

- 歩行者動線を阻害しない位置への駐車場出入口の設置

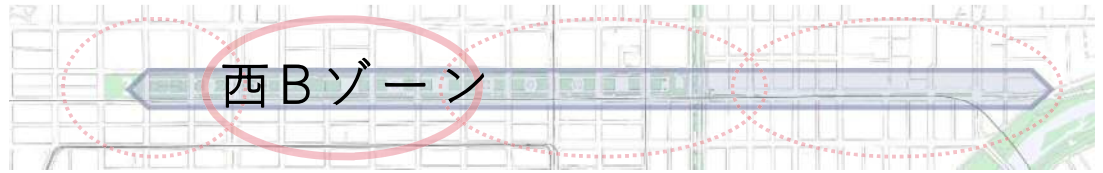


【心身の健康増進】

- 大通公園と一体感を感じられるような設えの工夫
 (内装の木質化、低層部ににぎわい機能の導入、屋外テラスの設置など)
- 健康増進に資する機能の導入
 (ランニングステーションやジム等の機能の導入)



街区・道路・公園の一体感を



西Bゾーン



【魅力あるライフスタイル】

- イベント開催時の大通公園と周辺のパブリックスペースとの一体的な活用
- 道路空間などを活用した実証実験
(イベント時の公園と道路の一体的な活用のための実証実験など)
- 大通公園の在り方*検討

※日常利用とイベント利用の使い分け、公園の憩い機能を発揮する、公園敷地内外の空間形成など



【象徴性の継承】

- 沿道建物低層部を活用した賑わい創出
(オープンカフェや屋外テラスの配置など)
- 沿道建物から大通/大通公園までの空間を繋ぐパブリックスペースの創出や利活用
(民間開発の創意工夫による機能配置、民間開発等との連携によるみどりの創出など)



【心身の健康増進】

- 建物の内部の活動が見える設えと使い方の工夫
(屋内緑化によるみどりの連続性の創出など)



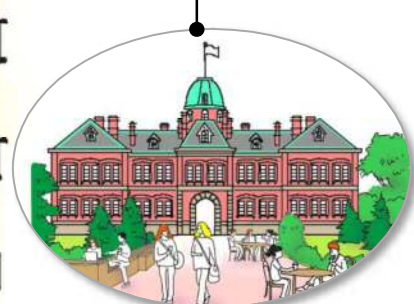
【円滑な移動環境】

- 路上駐車対策などによる自転車が安全に通行できる空間の確保

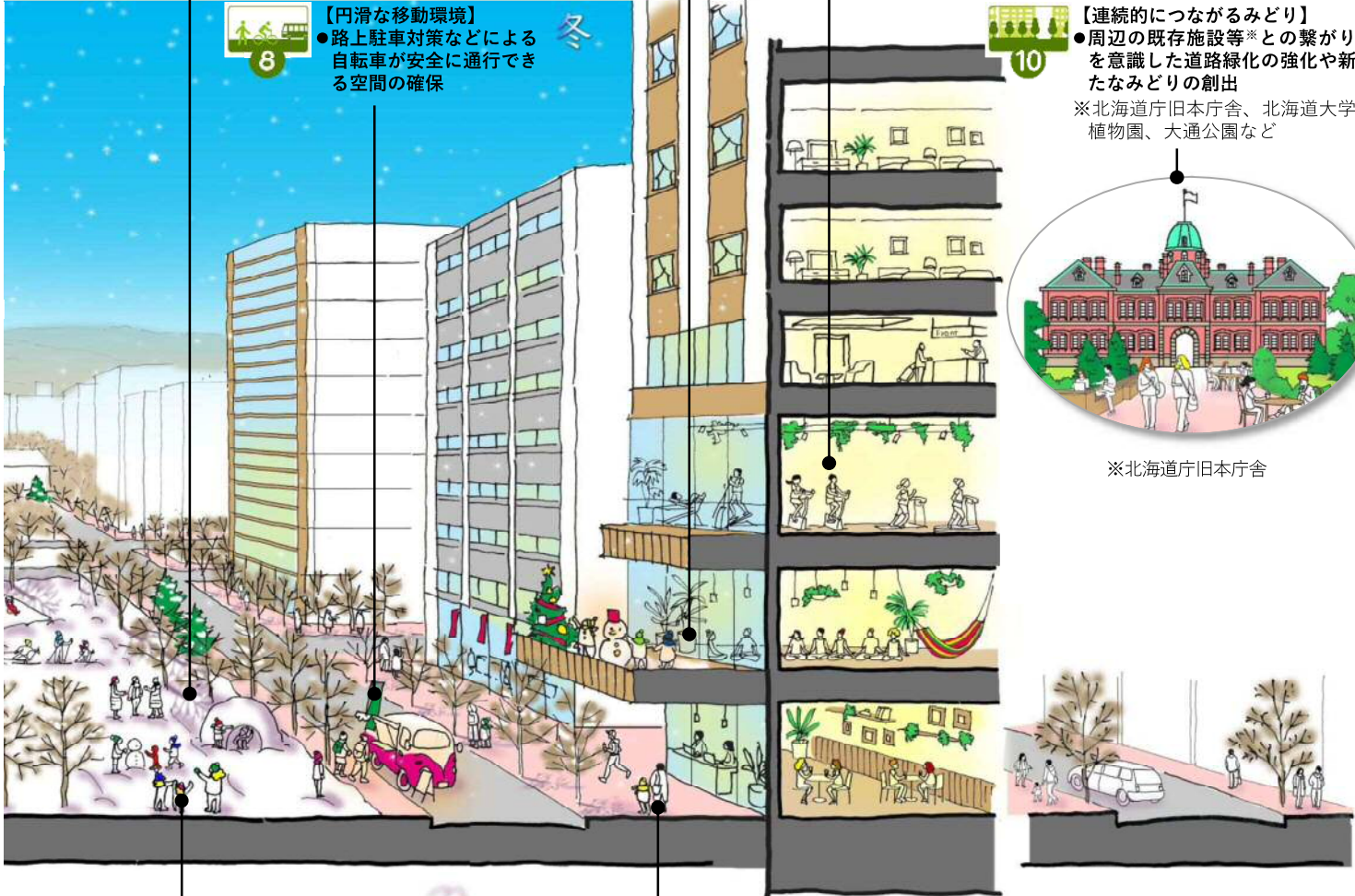


【連続的につながるみどり】

- 周辺の既存施設等*との繋がりを意識した道路緑化の強化や新たなみどりの創出
※北海道庁旧本庁舎、北海道大学植物園、大通公園など



※北海道庁旧本庁舎



【協働によるまちづくり】

- 新たなエリアマネジメント団体組成の促進
- 地域主体のまちづくり活動の促進
(地権者間のまちづくり検討支援、市民・企業と連携した緑化促進など)



【心身の健康増進】

- 歩行時の障害となる部分の改良
(建物や移動経路のバリアフリー化など)
- 季節を問わず通れる空間の整備
(屋外のピロティ空間整備、隣接する建物間の接続などの屋内の連続的な歩行空間整備など)

感じられる空間の形成